

平成 25 年度 事業報告書

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

事業の状況

1. 助成事業

情報科学の国際的研究交流を推進するため、研究者海外派遣助成、外国人研究者交流助成及び特定分野研究交流助成を以下のとおり実施した。

1.1 研究者交流助成

(1) 研究者海外派遣助成

将来を担うべき有能な若手研究者を対象に、海外で開催される情報科学に関する国際研究集会派遣のための渡航費及び滞在費の一部を助成した。

①募集・選考

助成募集要項および申請書は財団ウェブページに掲載するとともに、大学等学術研究機関の情報系関連部署 150 ヶ所に募集案内を郵送し、公募した。4 月 1 日～5 月 31 日まで募集したところ、次のとおり申請が 60 件あった。

- a. 地域別： アメリカ 18 件 イギリス 7 件
 台湾・オーストラリア・フランス・スウェーデン 各 3 件
 韓国・中国・スペイン・チェコ・ブラジル 各 2 件
 香港・インドネシア・インド・カナダ・イタリア・ベルギー・スイス・オランダ・デンマーク・
 ブルガリア・グルジア・モロッコ・南アフリカ共和国 各 1 件
- b. 年齢別： 20 代 41 件 30 代 16 件 40 代 3 件

6 月 26 日開催の選考委員会において慎重に審議し、採択 10 件、補欠 2 件を選考した。

②決定・交付

選考委員会の選考結果を受け、理事長が平成 25 年度研究者海外派遣助成金交付対象者を下記表のとおり決定し、助成金を交付した。採択のうち辞退が 2 件あったので、補欠 1 件を繰り上げて採択とした。

助成件数 9 件、助成金交付総額 1,740,000 円。

氏名・所属	参加国際会議	助成金額
Hsiang-Yun Wu 東京大学大学院新領域創成学科 特任研究員	17th International Conference Information Visualisation (イギリス)	20 万円
伊部 直樹 東京大学大学院工学研究科 修士 1 年	40th SIGGRAPH2013 (アメリカ)	17 万円
中山 仁史 香川高等専門学校電気情報工学科 助教	SMAC Stockholm Music Acoustics Conference 2013 (スウェーデン)	20 万円
小倉 由佳里 お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科 博士前期 1 年	51st Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics (ブルガリア)	20 万円

氏名・所属	参加国際会議	助成金額
策力 木格 電気通信大学大学院情報システム学研究科 助教	IEEE 78th Vehicular Technology Conference (アメリカ)	17 万円
溝口 晃 東京大学大学院情報理工学系研究科 修士 1 年	INTERACT2013 (南アフリカ共和国)	20 万円
片平 拓希 筑波大学大学院システム情報工学研究科 博士前期 1 年	21st European Signal Processing Conference (モロッコ)	20 万円
大野 誠 筑波大学大学院システム情報工学研究科 博士前期 1 年	ACM Symposium on User Interface Software and Technology (イギリス)	20 万円
宮内 将斗 電気通信大学大学院情報システム学研究科 博士前期 2 年	ACM Symposium on User Interface Software and Technology (イギリス)	20 万円

(2) 外国人研究者交流助成

将来を担うべき有能な外国人研究者又はそれを受け入れる研究者を対象に、日本で開催される国際研究集会参加、又は日本の研究機関において共同研究を行うための渡航費及び滞在費の一部を助成した。

① 募集・選考

助成募集要項および申請書は財団ウェブページに掲載するとともに、大学等学術研究機関の情報系関連部署 150 ヶ所に募集案内を郵送し、公募した。4 月 1 日から 5 月 31 日まで募集したところ、次のとおり申請が 4 件あった。

- a. 地域別： 台湾・ニュージーランド・イラン・ナイジェリア 各 1 件
- b. 年齢別： 20 代 2 件 30 代 1 件 40 代 1 件
- c. 目的別： 調査・共同研究目的 4 件

6 月 26 日開催の選考委員会において慎重に審議し、1 件を採択した。

② 決定・交付

選考委員会の選考結果の報告を受け、理事長が平成 25 年度外国人研究者交流助成金交付対象者を下記のとおり決定し、助成金を交付した。

助成件数 1 件、助成金交付額 200,000 円。

外国人研究者氏名・所属	受入れ機関	出発地	助成金額
Maziar Goudarzi シャリフ工科大学情報工学科 助教授	九州大学大学院システム情報科学研究院	イラン	20 万円

1.2 特定分野研究交流助成

ソフトウェア分野における情報技術の将来を見通した研究課題の提言を行うことを目的に、産学の研究者が活発に交流する調査研究グループによる、ワークショップの開催、海外からの研究者の招聘及び国際会議への派遣を中心に研究交流助成を行った。

(1) 募集・選考

助成募集要項をソフトウェア関係学会のメーリングリストに配信し、4月12日～5月15日の間、対象テーマを募集したところ、12件の申請があった。なお、申請は主査となる大学等学術研究機関の研究者が行うものとした。5月27日の特定分野運営委員会において慎重に審議され、3件が採択された。

(2) 決定・交付

特定分野運営委員会の選考結果を受け、理事長が平成25年度特定分野研究交流助成として3件の助成対象テーマおよび助成金額を決定した。助成対象期間は、平成25年4月1日～26年3月31日。

助成件数 3件、助成金交付総額 3,015,672円。

(3) 対象分野及び各活動内容

対象研究テーマと活動内容はそれぞれ以下のとおりとなった。

①ソフトウェア進化技術の実践に関する調査研究（助成金交付額 1,157,040円）

グループメンバー：（主査）丸山勝久（立命館大学）

澤田篤史（南山大学）、小林隆志・林晋平（東京工業大学）、大森隆行（立命館大学）、飯田元・門田暁人・吉田則裕（奈良先端科学技術大学院大学）、角田雅照（近畿大学）、岩政幹人・村田由香里（東芝）、位野木万理・白石崇・長岡武志（東芝ソリューション）、林千博（とめ研究所）、吉村健太郎・大島敬志・三部良太・福地豊（日立製作所）

②セキュリティとプライバシーを考慮したソフトウェア開発における共通問題の調査研究

（助成金交付額 928,696円）

グループメンバー：（主査）大久保隆夫（情報セキュリティ大学院大学）

吉岡信和（国立情報学研究所）、海谷治彦（信州大学）、鷺崎弘宜（早稲田大学）、柿崎淑郎（東京電機大学）、斯波万恵（東芝ソリューション）、黒丸知也（とめ研究所）、竹之内隆夫（日本電気）、中川雄一郎（日立製作所）

③サービスビジネス開発者の視点からのM2M標準化動向調査（助成金交付額 929,936円）

グループメンバー：（主査）石松宏和（日本経済大学）

内平直志（北陸先端科学技術大学院大学）、米田進（標準化戦略アドバイスマンバ）、蔭山佳輝（東芝）、櫻井茂明（東芝ソリューション）、水島和憲（日立製作所）、成瀬博（日本電気）

(4) 成果の報告

平成24年度産学戦略的研究フォーラム全体報告会を5月27日、国立情報学研究所（東京都千代田区）において行った。また、別途ウェブページ上で成果報告を公開した。

なお、平成25年度に関する報告会は平成26年5月29日に開催予定となっている。

2. 競技会開催事業

将来を担う情報科学の若手研究者の育成のために、情報技術に関する競技会を以下のとおり開催した。

(1) プログラミングコンテスト(ICPC)開催

競技開催費 9,807,637 円

ACM(国際計算機学会)が年 1 回、世界的規模で開催している国際大学対抗プログラミングコンテスト(ACM-ICPC)のアジア地区予選として ICPC2013 会津大会を会津大学と共同で開催した。

①経緯

会津大学から、開学 20 周年の記念事業の一環として、また、東日本大震災・原子力発電所事故の際の支援に対する感謝の表明および福島県の現状への理解を求めることを目的に、共催の申し出があり、ICPC 運営委員会の決議を経て、理事長が会津大会の開催を決定した。

②実施概要

日時：平成 25 年 11 月 23～25 日

場所：会津大学(福島県会津若松市一箕町鶴賀)

主催：ACM-ICPC 会津大会実行委員会、会津大学、(公財)情報科学国際交流財団

大会委員長：角山茂章(会津大学長)

実行委員長：Alexander P. Vazhenin(会津大学)

実施委員長：鈴木大郎(会津大学)

審判長：松崎公紀(高知工科大学)

内容：ICPC は、大学院、大学及び高等専門学校の同一校の学生 3 人が 1 チームを構成し、コンピュータプログラミングの正確さと速さを競うコンテストで、世界大会出場のための選抜大会として、世界各地で地区大会が行われる。本大会は平成 26 年 6 月に開催される世界大会のアジア地区予選に該当した。まず、インターネットを利用して日本国内予選を実施し、本選は予選通過チームと外国チームが一堂に会し、会津大学講堂で行った。出題、進行等についてはすべて英語が使用。

参加数：国内予選(7 月 12 日 Web を利用して開催)・・・ 76 校 326 チーム

会津大会本選・・・ 国内 27 校 34 チーム、海外 6 校 6 チーム 計 33 校 40 チーム

(池辺記念奨励枠として、神奈川工科大学、中央大学、東京工科大学の 3 校 3 チームを選抜し、613,740 円を充てた。当該枠の残額は、1,689,260 円)

結果(大学順位)：1 位東京大学、2 位国立台湾大学(台湾)、3 位上海交通大学(中国)

(世界大会への参加権は、日本からは、東京大学、東京工業大学、京都大学、筑波大学が得た。)

(2) ICPC 地区大会及び世界大会への派遣

①ICPC アジア地区予選への派遣

派遣補助 2 チーム、計 379,720 円。

11 月 1～2 日にテジョン(韓国)で開催されたアジア地区予選(ICPC2013 テジョン大会)へ、日本国内予選で 1 位となった東京大学チーム(Operasan)を派遣し、優勝した。

11 月 29 日にダナン(ベトナム)で開催されたアジア地区予選(ICPC2013 ダナン大会)へ、日本国内予選で 4 位となった東京工業大学チーム(binding.pry)を派遣した。結果は 5 位。

②ICPC 世界大会への派遣(学生競技者)

派遣補助 3 チーム、計 960,000 円。

平成 24 年度の地区予選大会(ICPC2012 東京大会)で選ばれた 3 チーム(東京大学、電気通信

大学、東京工業大学)を6月30日～7月4日に、サンクトペテルブルク(ロシア)で開催されたICPC世界大会へ派遣した。結果は、東京大学が3位、電気通信大学が14位となった。

③ICPC世界大会への派遣(指導者)

派遣 1件、284,712円。

前述の世界大会の会期中に行われる指導・運営に関する会議に、ICPC運営委員・石畑清教授(明治大学)を派遣した。

(3)ICPCに関わる予備練習会等の開催

過去に行われたICPCへの参加経験者(OB/OG)の協力のもと、予備練習会を行った。

①国内予選の前の6月23日にインターネットを利用した予備練習会を行った。

②9月20～23日にわたり、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて会津大会に向けた強化合宿を行い、日本チーム全体のレベル向上、競技プログラミング界全体の活性化を目標とした。

参加者は選手57名とスタッフ21名で計78名、開催補助250,000円。

③会津大会の前、11月10日、東京(Google社会議室)・大阪(大阪大学)の2会場において模擬練習会を行った。

(4)ICPC2014開催

10月31日のICPC運営委員会において早稲田大学を次年度の開催校に選定し、理事長がICPC2014東京大会の開催を決定した。

以上